

係留時における荒天対策について



冬場は、低気圧が発達しやすく海上の荒れる日が多くなります。本年11月には、係留中の漁船が、うねりにより岸壁と接触して外板が壊れ、海水が浸入して一夜で沈没する事故が発生しています。出港を取り止めた場合でも、港内係留中の船舶には以下の荒天対策を講じるなど、十分な保船・管理を行って下さい。



本年11月に港内で沈没した漁船

■ 係留索(もやい)の強化

ロープが古かったり、擦り切れた部分があれば事前に取り替えるとともに、予備索を準備しておきましょう。ロープを二重にしたり、前後部偏らずにロープを張り合わせて、力を分散させましょう。ロープが岸壁の端や角に当たる場合は、ロープ自体が擦れないよう角に当たる部分にゴムホースや毛布などを巻き付けましょう。

■ フェンダー(防舷材)の強化

風浪による岸壁への圧流や船体動揺による岸壁との摩擦に耐えられるように、フェンダーを増やしたり、強度のあるフェンダーに交換しましょう。



■ 船上の片付け

飛散するおそれのある物は、船内に入れ、風浪や船体動揺で動きそうな物は、ロープなどで固定しましょう。開口部は、水が打ち込んだりすることの無いよう隙間を無くし、風や動揺で開かないようにしっかりと閉めましょう。

■ 大雪に注意

昨年、甲板上等に雪が積もり、その重みで船体が傾斜して沈む事故が複数発生しています。こまめな除雪を心がけましょう。



■ 潮汐等の変化にも注意

高潮により思わぬ高さまで海面が上昇し、フェンダーが岸壁上に乗り揚げたり、もやいの長さが足りずに船体が傾斜し沈没に至ることがありますので、特に満潮時には注意しましょう。

海の道しるべ(7) 「LED灯器」

航路標識は、船舶が安全かつ能率的に航行するために設置されている海の「道しるべ」です。それぞれの役割を正しく理解して事故のない安全な航海に努めましょう。航路標識に使用されている光源は、LED灯器が主流となっています。

乙忠部港東防波堤灯台(枝幸町)



LED II 型
光の届く距離: 7~9km

室蘭港北外防波堤灯台



LED V 型
光の届く距離: 13~14km

知床岬灯台



高光度LED
光の届く距離: 22~23km

お問い合わせは **第一管区海上保安本部交通部**

電話 0134-27-0118 (内線2615, 2616)

MICSホームページ <http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/>



海難隻数及び海難による死者・行方不明者数(11月末現在速報値)

11月	16隻、2人
平成25年累計	118隻、16人